

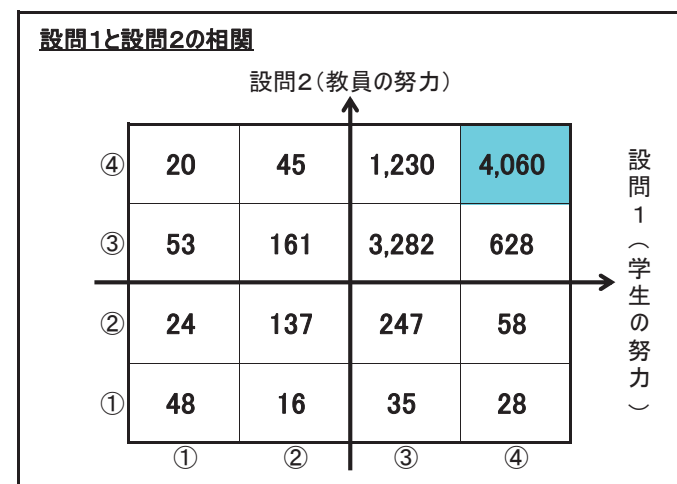
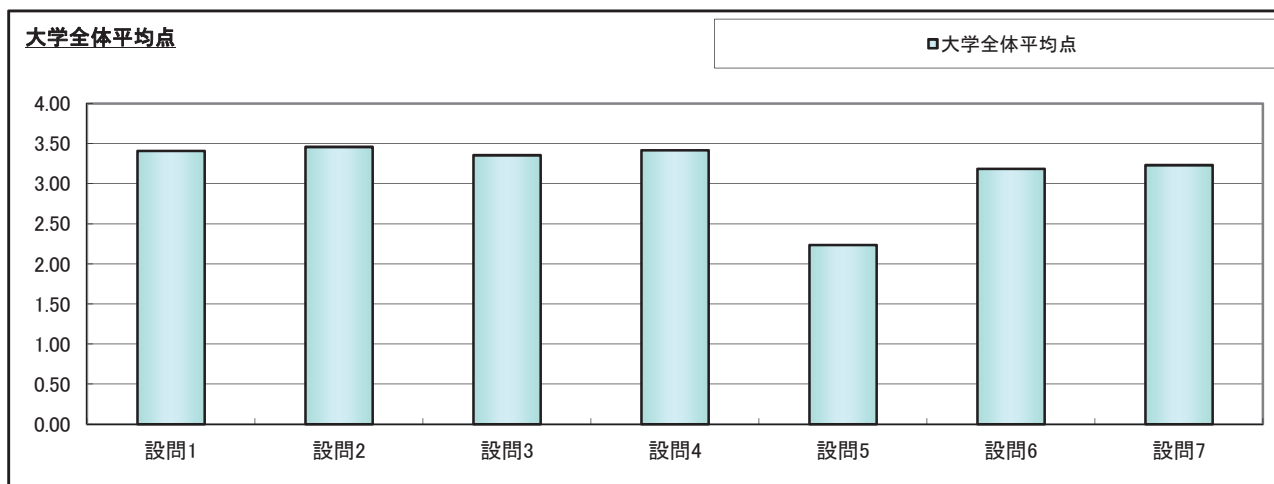
# 2017年度 前期 授業についての学生アンケート集計結果(全体)

松本大学

集計	大学
----	----

履修人数	11,902
回答者数	10,086

設問	設問文	平均点	回答数(人) / 回答率(%)				無効回答	有効回答
			④	③	②	①		
1	あなたはこの授業(必修、選択は問わない)内容を理解することに積極的でしたか。 ④積極的に理解しようとした。③理解しようとした。②あまり積極的ではなかった。①理解よりも単位取得が主目的だった。	3.41	4,776 47.4	4,796 47.6	359 3.6	145 1.4	10	10,076
2	学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか。 ④強く感じた。③やや感じた。②あまり感じなかった。①まったく感じなかった。	3.46	5,362 53.2	4,125 40.9	466 4.6	128 1.3	5	10,081
3	この授業は内容がよく理解できるように工夫・配慮されたものでしたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.36	4,700 46.7	4,444 44.1	755 7.5	175 1.7	12	10,074
4	教員は良い学習環境(私語に対する注意や安全面への配慮など)を保っていましたか。 ④良い学習環境だった。③ある程度良い学習環境だった。②あまり良い学習環境ではなかった。①良い学習環境ではなかった。	3.42	5,044 50.1	4,356 43.2	528 5.2	144 1.4	14	10,072
5	この授業のために、授業時間以外に毎週平均的にどれくらいの学習時間(予習・復習・レポート・実習・試験勉強など)をもちましたか。 ④2時間以上、③1時間以上～2時間未満、②30分以上～1時間未満、①30分未満	2.24	1,662 16.5	2,408 23.9	2,632 26.2	3,362 33.4	22	10,064
6	授業をよりよくするために実施された中間アンケート調査など、寄せられた要望について、その後の授業で反映されていましたか。 ④よく反映されていた。③ある程度反映されていた。②やや反映されていた。①反映されていなかった。	3.19	3,691 37.1	4,800 48.2	1,103 11.1	362 3.6	130	9,956
7	あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標を達成できましたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.23	3,546 35.3	5,477 54.5	869 8.6	164 1.6	30	10,056



区分	大学
----	----

## 改善計画等

[多くの講義は好評であり、本学の教育は概ね成功している]

学部が増えて、調査対象となる延べ人数も増加している。今回も設問1（学生の学ぶ意欲）と設問2（教員の熱意）との関係で、このアンケート結果を概観してみる。有効回答数10,072の内、第一象限9,200（91.3%）、第二象限279（2.8%）、第三象限225（2.2%）、第四象限368（3.7%）となっている。第一象限は学生、教員共に意欲的に講義に向き合っているということを意味する領域であるが、これが91%という圧倒的な数値になっているということから、本学の教育は概ね成功していると言える。というのも、良い講義というのは教員だけの熱意が空回りしても成り立たないだろうし、逆に学生の取り組む姿勢が不熱心であればどんな講義であっても「馬の耳に念仏」という状況に陥ってしまうだろうからである。しかも、第一象限の中でも右上隅の割合が4,060名で40.3%に達しており、本学の講義の成功度がかなり高いことが肯けるであろう。

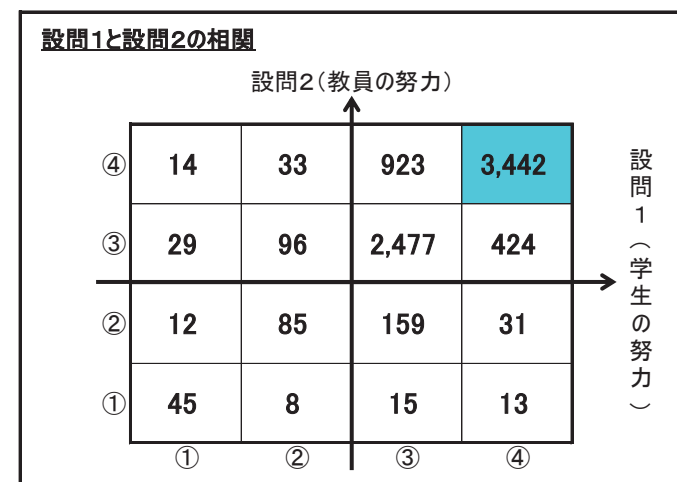
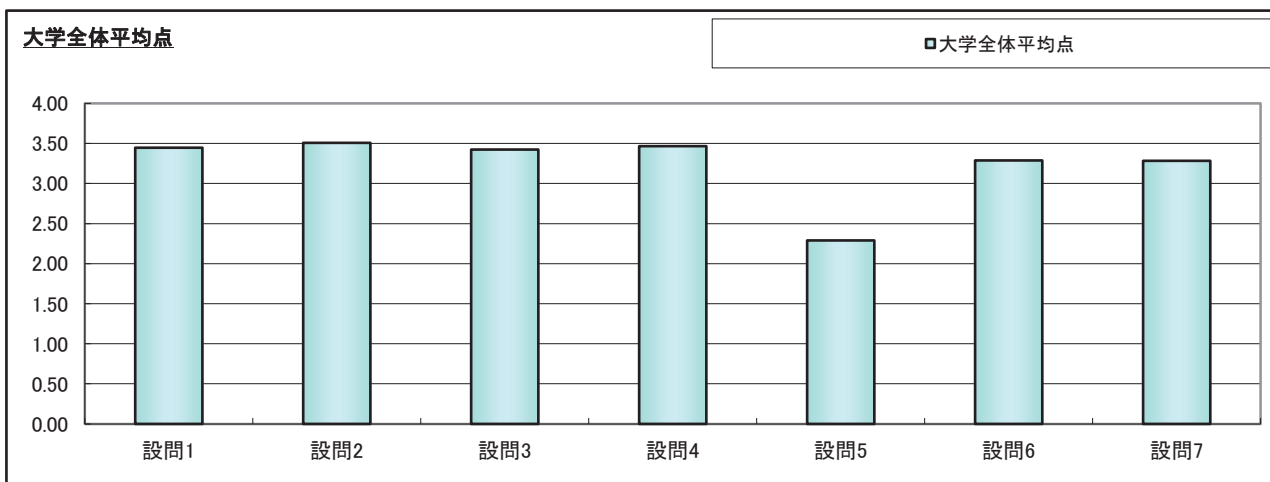
[第四象限問題の本格的解決に向けて]

第四象限は、学生のやる気に対して教員側が応えていないという領域である。ここに延べ368名、3.7%が存在することをどう見るかである。こうした状況が続くようだと、学生の退学にもつながりかねず、大学側からすれば重大な問題であるといえよう。確かに、退学の理由は必ずしもここに現れる数値だけで推し量られるものではない。家庭の事情や経済的な問題、メンタル面での課題も関係しているであろう。しかし、第四象限問題はその遠因になっている可能性がある。またこの調査とは別に行われる、卒業時のアンケート（無記名）においても、名指しで良くなかった講義を指摘する場合も見られる。その指摘は概ね第四象限に分布する学生からのものと見ても良いのではないか。本学にとってのFD活動が、第四象限の学生数を減らすことにその重要な意味があるとすれば、すでに学生から指摘を受けている少数の教員が襟を正すだけで良いのかも知れない。そうであるならば、該当しそうな教員を対象にして、教育手法の改善などに取り組むことを促すような対応策を講じれば事足りるのかも知れない。いずれにせよ、3.7%という数値を軽く見ることなく、その根絶に向かうことがアンケートに表現されている学生の期待に応える道であろう。

集計	大学
----	----

履修人数	9,423
回答者数	7,813

設問	設問文	平均点	回答数(人) / 回答率(%)				無効回答	有効回答
			④	③	②	①		
1	あなたはこの授業(必修、選択は問わない)内容を理解することに積極的でしたか。 ④積極的に理解しようとした。③理解しようとした。②あまり積極的ではなかった。①理解よりも単位取得が主目的だった。	3.45	3,910 50.1	3,574 45.8	222 2.8	100 1.3	7	7,806
2	学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか。 ④強く感じた。③やや感じた。②あまり感じなかった。①まったく感じなかった。	3.51	4,413 56.5	3,029 38.8	287 3.7	81 1.0	3	7,810
3	この授業は内容がよく理解できるように工夫・配慮されたものでしたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.42	3,972 50.9	3,281 42.0	445 5.7	109 1.4	6	7,807
4	教員は良い学習環境(私語に対する注意や安全面への配慮など)を保っていましたか。 ④良い学習環境だった。③ある程度良い学習環境だった。②あまり良い学習環境ではなかった。①良い学習環境ではなかった。	3.47	4,190 53.7	3,162 40.5	357 4.6	96 1.2	8	7,805
5	この授業のために、授業時間以外に毎週平均的にどれくらいの学習時間(予習・復習・レポート・実習・試験勉強など)をもちましたか。 ④2時間以上、③1時間以上～2時間未満、②30分以上～1時間未満、①30分未満	2.29	1,422 18.2	1,917 24.6	1,965 25.2	2,500 32.0	9	7,804
6	授業をよりよくするために実施された中間アンケート調査など、寄せられた要望について、その後の授業で反映されていましたか。 ④よく反映されていた。③ある程度反映されていた。②やや反映されていた。①反映されていなかった。	3.29	3,296 42.5	3,626 46.7	611 7.9	225 2.9	55	7,758
7	あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標を達成できましたか。 ④そう思う。③ややそう思う。②あまりそう思わない。①そうは思わない。	3.28	3,018 38.7	4,097 52.6	542 7.0	134 1.7	22	7,791



区分	大学
----	----

## 改善計画等

## (1) 大多数(93%程度)の学生は活気ある授業に満足している

履修人数9,423、回答総数が7,813で、回収率は82.9%であった。第1問と第2問の相関で見たとき、その内訳は、第一象限7,266(93.0%)、第二象限172(2.2%)、第三象限150(1.9%)、第四象限218(2.8%)であった。第二、三象限では322(4.1%)、第三、四象限では368(4.7%)である。これらの点は2016年度後期と比べても、大きな相違は見られない。本学で展開されている授業は、教員も教えることに情熱を發揮しており、学生も学ぶ意欲が漲っているとの回答が93%ということなので、活気のある授業が展開されていることを伺わせ、申し分ないということになる。

## (2) 学ぶ意欲を喪失させている学生が若干(4%程度)存在する

学生が自分で努力が足りないと認識しているのは第二、三象限で322名で4.1%である。この割合は大きいわけではないが、また昨年度より減少している。これが退学とかに直結するなら、大きな問題になる。本学の退学率が年間平均10%前後であるから、その内の学業不振などの理由による退学がこの数値に表れている可能性は十分にある。原因はいくつか考えられるだろうが、一つには学生個人の生活の乱れ(バイトや夜更かしで寝ている)、授業態度や学力不足の問題(おしゃべり、難しくついて行けない)、不足する授業研究(こんな授業内容だったのか)など学生側に起因する場合。もう一つは教員の授業内容・技術(何を話しているのか要点が掴めない)の問題、カリキュラムマップなど学科或いは分野を担当する教員集団の姿勢の不明確さの問題(どのような流れの中にこの科目が位置付けられるのか分からない等)、このような大学側・教員側の問題もあるかも知れない。いずれにせよ、こうした領域への回答者が退学などへつながらなくするための手立てが必要であり、それがF・D・S・D研修ということになる。

## (3) 学生の期待に応えられていないケース(3%弱)もなくはない

特に大学側として問題にすべきは第四象限である。この象限は、学生は学ぶ意欲があるにもかかわらず、教員の意欲が感じられないとする回答となるがそこに218人、2.8%が存在している。この割合も昨年度同期(211名、2.6%)と比べ、ほんの僅か増加した程度に収まっている。これが多数の授業に分散していれば、「例外的にそのように感じる学生がいる」で済ますことも出来なくはないが、いくつかの授業科目だけに集中しているとすると、その授業科目は大いに問題を含んでいるということになる。少人数の授業ならばこのような傾向の回答になることは考えにくだろうし、もしそうなら授業中にその雰囲気修正しようとする力が教員側に働くであろうし、働かせていないなら指摘しない学生側にも問題があるとも言える。いずれにせよ、この半分でも第一象限に変更させることが出来れば、退学率も減少できる可能性があるということになる。

## (4) 授業時間外学修の増加にはもう一工夫が必要か

その他には、設問5に対しては、他の設問に比べ平均点が顕著に低く(授業時間外学修時間が少ないことを意味している)相変わらず克服できていない。教員の意図として、机に向かった学修ではなく、学外に出て体験すること、新聞を読んだりすることなど学生が学修と思わないことが組み込まれて